

|    |    |           |
|----|----|-----------|
| 学番 | 52 | 県立堀之内高等学校 |
|----|----|-----------|

令和 4 年度 学校自己評価表（報告）

| 学校運営計画  |   |   |  |    |   |
|---|---|---|--|----|---|
| <b>学校運営方針</b>   |   | さまざまな学習歴や生活歴をもった生徒が個々の事情に応じて自分のペースで学ぶ中で、<br>1 基礎学力の定着を図り、確かな学力の向上を目指す。<br>2 社会規範意識の涵養や自己管理能力の高揚を図る。<br>3 各人の違いを理解し、豊かな人間性を育む。<br>などに取り組み、社会の一員としてたくましく生きることができる生徒を育成する。 |  |    |   |
| 昨年度の成果と課題   | 令和 4 年度の重点目標                            | 具体的目標   |  |    |   |
| (成果)<br>・授業のユニバーサル化やICTの活用等で分かる授業を実践するとともに、スマートフォンの使用について一斉に指導を行った。生徒の授業への取組状況が向上した。<br>・個に応じた支援や配慮を行うとともに、保護者への連絡や面談を細やかに行き、家庭と連携して粘り強く指導に取り組んだ。転退学する生徒が減少した。<br>・計画的な進路ガイダンス等ときめ細やかな個別指導を行った。早期に卒業予定生徒全員の進路が決定した。<br>(課題)<br>・例年、1年次にSNSのトラブルが発生している。入学後早い時期に家庭や地域と連携して指導する必要がある。<br>・ICT活用等で「分かる授業」を実践し、生徒の学習意欲を高めるとともに基礎学力の定着を図る。 | 自分を大事にするとともに、他人を思いやる心を持てるよう粘り強く指導に取り組む。 | ・自殺予防プログラム（SOSの出し方に関する授業）の実践を通して、相談できる力を育み、支え合うことの大切さを理解させる。<br>・一人一人の個性や多様性を認め合い、自他の人権を考えることのできる人権教育に取り組む。   |  |    |   |
|   | 授業のユニバーサル化や個に応じた支援や配慮など特別支援教育の充実を図る。    | ・特別な支援が必要な生徒に対し、面談や家庭訪問などの個別指導を行う。<br>・必要により関係機関と連携し、丁寧な見守り活動を行っていく。  |  |    |   |
|   | 各教科等の学習過程を踏まえて、ICTを積極的に活用し、学習指導の効果を高める。 | ・ICT活用等、生徒主体の学びのための授業改善に取り組む。<br>・充実した高校生活を送れるように教育環境の整備を図る。  |  |    |   |
|   | 地域社会や企業、関係機関との連携を図り、地域に愛着を持つ生徒を育成する。    | ・地域探究やキャリア教育を通して、ふるさとへの愛着心を育む。<br>・地域と連携し、実務代替やボランティア活動を推進する。   |  |    |   |
| 重点目標  | 具体的目標                                   | 具体的方策   |  | 評価 |   |
| 基礎学力の定着   | 学習習慣を確立し、単位修得率の向上を図る。                   | 単位修得率向上のため、生徒の学習状況を把握し、生徒・保護者との面談を行う。<br>ICTを活用し、学習活動や授業を工夫して積極的な授業態度を育成する。   |  | A  | A |
|   | 基礎学力の定着を図る。                             | 授業のユニバーサル化や教材の工夫・補習等の実施により、学習が遅れがちな生徒への個別指導を充実する。<br>生徒の課外学習の充実を図る。   |  | B  |   |
|   | 生徒個々に応じた計画的な履修を指導する。                    | 履修認定のため、授業の出席状況を生徒・保護者に知らせる。<br>個別面談等を実施することにより、きめ細やかな履修指導を行う。  |  | A  |   |
|   | 生徒の個性・適性を生かした進路選択を指導する。                 | 個人面談や進路ガイダンス等により、個に応じた指導を行う。<br>LHRや総合的な探究の時間等を通じて、自己の在り方や生き方の理解を深める。   |  | A  |   |
| 進路希望の実現   | 生徒・保護者・教職員が協力して進路活動を行う。                 | 保護者進路説明会等、家庭での進路研究に役立つ進路の情報提供等を行う。<br>三者面談を実施して、指導内容や意識の共有を図る。  |  | B  | A |
|   | 進路意識啓発の場を設定する。                          | 講話やハローワークとの連携を通じて、適切な職業観や勤労観を育成する。<br>講話やハローワークとの連携を通じて、進路意識の啓発を行う。   |  | A  |   |
|   | 進路意識啓発の場を設定する。                          | 講話やハローワークとの連携を通じて、進路意識の啓発を行う。   |  | A  |   |

| 重点目標   | 具体的目標                           | 具体的方策   | 評価  |   |
|--|---------------------------------|---|---|---|
| 基本的生活習慣の定着   | 健全な集団生活を通じて自立性の向上と他者への尊重を図る。    | 校内巡視や呼びかけ等を実施し、学校生活習慣の定着を図る。  | A   | A |
|  |                                 | 保護者との連携を密にし、無断欠席や遅刻等の減少を図る。   | A   |   |
|  |                                 | 挨拶を励行するとともに、集団行動を通して、集団生活の在り方や思いやり・人権尊重の精神や態度を養う。SSTを充実させる。   | B   |   |
|  | 保護者や地域と連携し、規範意識の高揚に努める。         | P T A総会やP T A便り、学年便り等により、学校の現状や課題等を伝える。   | B   | A |
|  |                                 | 学校内外の巡視等を実施し、問題行動の予防に努める  | A   |   |
|  |                                 | ポスターの掲示等により、規範意識の高揚を図る。   | B   |   |
|  | 安全教育の徹底を図る。                     |   | 街頭指導、講話やバイク実技講習会を実施し、交通マナーの向上に努める。                              | A |
| 校内点検や講話等により、安全や健康への配慮に努める。                           |                                 |   | B   |   |
| 積極的な情報提供に努め、自己防衛意識の啓発を図る。                            |                                 |   | A   |   |
| 生徒の主体性の育成と環境整備                                       | 生徒会活動の活性化を図る                    | 生徒会活動への意欲を引き出すような活動を行い、生徒全体の生徒会活動への関心を高める。  | A   | A |
|  |                                 | 主体的に生徒会行事を企画運営できる生徒会執行部を育成する。   | A   |   |
|  | ボランティア活動を通じて、生徒の社会性の向上を図る。      | ボランティア活動への参加を通じて、地域の一員としての意識の向上を図る。   | A   | B |
|  |                                 | ボランティアの案内の掲示や呼びかけを通じて、参加者の増加を図る。  | B   |   |
| 生徒への健康教育の充実  | 生涯を通して健康で安全な生活を送ることができる能力を育成する。 | 健康診断や日常の健康観察等を通して、自己の健康管理能力の向上を図る。  | B   | B |
|  |                                 | 生徒の実態を踏まえた保健講演会や年次別保健教育を企画し、自立に向けた能力を育成する。  | A   |   |
|  |                                 | 清掃活動や委員会活動を通して、公共心・美化意識の向上を図る。  | B   |   |
|  | 研修会や情報交換会を通して課題を共有し、学習環境を整える。   | 情報交換会や職員会議後等、機会を捉えて情報共有を行い、生徒一人一人の課題の把握に努める。  | A   | A |
|  |                                 | 特別支援教育に関する研修会を通じて、教職員の知識や指導力の向上を図り、より深い生徒理解に繋げることを目指す。  | A   |   |
|  | 教育相談の充実を図る。                     |   | 学期に1回教育相談週間を設け、各種アンケートや学校適応感の調査結果等を踏まえた面談を行う。必要に応じて関係機関との連携を図る。 | A |
| S Cと情報共有・交換を行うとともに「S C相談記録」を活用して関係職員の連携を図り、適切な支援を行う。 |                                 |   | B   |   |
| 成果   |                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から生徒に関する情報を共有し、個に応じた支援や配慮を行うとともに、保護者への連絡や面談を細やかに行って家庭と連携して粘り強く指導に取り組んだ。出席状況や学習態度が改善する生徒が見られた。</li> <li>・1年次から計画的な進路ガイダンス等を行うとともに、きめ細やかな個別指導を行った。早期に就職希望生徒全員が内定した。</li> <li>・授業のユニバーサル化やI C Tの活用等で分かる授業を実践した。生徒の授業への取組状況の向上がみられた。</li> </ul> | 総合評価  |   |
|  |                                 |   | A   |   |